

## 第2章 自然体験活動の安全管理

### 1. 安全管理の要点

#### (1) 安全管理とは

指導者（引率者）が、参加者（子どもたち）が安全・安心に活動ができるようにする取組を「安全管理」とし、3つの段階に分けて考えることとします。

段 階	内 容
活動前	①事故が起こらないようにする取組
	②事故が起こったときを想定した取組
活動中	①事故が起こらないようにする取組
	②事故が起こったときの迅速・的確な対応
活動後	①事故が起こった後の迅速・的確な対応
	②事故を繰り返さないようにする取組

#### (2) 事故が起こるメカニズム

事故は、複数の要因が重なって起きます。例えば、雷鳴が鳴り響いているだけでは事故になりません。雷鳴の中、野外に出ることによって、落雷による事故が起きてしまうということです。



図 事故発生のメカニズム

不安全な行動	知らない	安全管理や野外活動に関する知識がない、情報が不足 等
	やれない	応急処置や野外活動に関する技術がない、体力や精神力がない 等
	やらない	怠慢、ルール軽視の組織風土、低い安全意識 等
不安全な状態	物的要因	壊れている、性能が低い 等
	自然的要因	大雨、強風、台風、落雷、濃霧、低温 等

#### (3) 「危険予見義務」と「危険回避義務」

指導者には、危険な場所や事項を予め想定する「危険予見義務」と、その危険を回避する方策を講じる「危険回避義務」があります。これを怠ると、事故が起こった際、法的責任を問われることとなります。

#### (4) 小さな事故を見逃さない

「1件の重大な事故の背景には、29件の軽微な事故が起こっており、またその背景には、300件の無傷な事故が起こっている」（ハインリッヒの法則）といわれています。「これぐらいは」という小さなコトを見逃ごすことなく、きちんと対処していくことが大きな事故を防ぐこととなります。

#### (5) 安全管理に関することは文書化する

事前の实地踏査の結果や当日の活動記録、安全指導の内容などは文書として残します。

引率者間で情報を共有するだけでなく、次年度への引継ぎ事項となります。また、万が一事故が起こった際には証拠にもなります。

## 2. 安全管理の内容

### (1) 活動前の安全管理

#### 1) 山口徳地自然の家職員からの情報取得

- ① 活動場所の危険箇所や活動プログラムの危険事項
- ② 事故事例
- ③ 山口徳地自然の家における安全管理体制（安全点検の実施状況、緊急時の対応内容 等）

#### 2) 事前調査（実地踏査）

- ① 活動場所を事前に調査し、危険箇所や避難場所等を確認します。
- ② 望ましいのは、実施時と同じ条件（例えば同じ時間帯）、事前と直近で実施することです。しかしながら、そうした時間を取ることが難しい場合、山口徳地自然の家の職員から情報を得てください。

#### 3) 安全管理計画の策定

- ① 前述の情報を基に安全管理計画を策定します。
  - ・安全指導の内容 ・緊急時の対応 ・保険の加入 等
- ② 引率者間の打ち合わせで情報を共有します。
- ③ 必要に応じて、引率者への研修を行います（野外技術、応急処置法など）。

#### 4) 参加者への安全指導

- ① 参加者に服装や持ち物、危険な場所や動植物、危険な行為など安全指導を行います。
- ② 山口徳地自然の家で活動前に行う安全指導の内容を確認し、必要なことを指導します。

#### 5) 参加者の状況把握

以下のことについて、把握しておきます。

- ① 既往症 ② 常用薬 ③ アレルギー ④ その他注意すること（人間関係、性格 等）

### (2) 活動中の安全管理

#### 1) 実施の判断

- ① 引率者は、山口徳地自然の家職員と気象情報をもとに、実施の判断をしてください。
- ② 山口徳地自然の家には活動プログラムごとに実施判断基準があります。
- ③ 気象条件の他に、指導体制や参加者の心身の状況等も判断材料になります。

#### 2) 参加者への安全指導

- ① 健康観察を行います（体調が不十分な参加者は、活動を取り止める勇気を持つ）。
- ② 活動の直前に指導することや、危険な行動をとった際に、その場で指導することが効果的です。
- ③ 指導は具体的に行います。
  - ・例「スズメバチに注意してください」ではなく、「スズメバチを見たら、そっと静かにその場を離れること。手で振り払おうとすると、蜂が攻撃されたと判断しおそってきます」
- ④ 不参加者への指導も重要です。
  - ・不参加者は、どこで、何をするのか、誰が指導するのかを明らかにしてください。
- ⑤ 人員点呼を必ず行ってください。
  - ・最初の出発時だけでなく、休憩場所に着いた時や出発する時なども行います。
- ⑥ 指導者は、参加者から目を話さない体制をとってください。
  - ・参加者を視野から外さないようにします。
  - ・隊列を組んだ登山の時は、指導者は先頭に立ち、それより前に参加者を行かせないよう



にします。また、最後尾に指導者がつき、これより後ろに参加者はいない状態にします。

### 3) 事故が起こった時の対応

- ① 事故者の救護にあたる(行方不明→搜索。ケガ→応急処置 等)。
- ② 救護に当たる者が二次災害に遭わないように注意します。
- ③ 他の参加者(子ども)の安全を確保します。
  - ・場所を移動させる。その場に待機させる。事故現場を見ないようにする 等
- ④ 山口徳地自然の家に連絡してください。
  - ・自然の家による救助・搜索 ・警察や消防への連絡 ・病院への連絡 等

### (3) 活動後の安全管理

#### 1) 参加者の異常の有無の確認

- ① 体調不良, 虫刺され, 植物によるかぶれ, ケガ等がないかを確認します。
- ② 異常があれば必要な処置を行います。

#### 2) 事故が起こった場合

- ① 事故者へのお見舞いや保護者等へのお詫びを必ず行います。
- ② 保険の手続きを行います。
- ③ 搜索等で協力していただいた関係者にお礼をします。
- ④ 事故の原因を分析します。
- ⑤ 事故の経過, 対応, 原因, 今後の対応等を報告書にまとめます。

### 【参考・安全対策のポイント】

#### <事前>

	身体面	精神面
参加者への指導等	<input type="checkbox"/> 危険な箇所や動植物, 行動 <input type="checkbox"/> 服装や持ち物 <input type="checkbox"/> 十分な睡眠などの健康面 <input type="checkbox"/> 自己管理・自己責任の必要性	<input type="checkbox"/> 事業参加への動機付けと参加不安の軽減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の目的の確認</li> <li>・活動内容に関する十分な情報提供</li> <li>・スタッフや緊急体制などの連絡</li> <li>・参加者から, 自らの不安情報を取得</li> </ul>
主催者側の管理等	<input type="checkbox"/> 実地踏査の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月前及び直前</li> <li>・できればスタッフ全員</li> <li>・危険な箇所の確認</li> <li>・スタッフの配置場所の確認</li> </ul> <input type="checkbox"/> 緊急時の体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の場所(経路)や診察内容・診察時間, 消防署・警察署の連絡先など(本所にお問い合わせください)</li> <li>・学校や家庭への連絡網</li> <li>・残された者への指導体制</li> </ul> <input type="checkbox"/> 天候の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの変更や事業の中止</li> </ul> <input type="checkbox"/> スタッフのトレーニング <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動スキル</li> <li>・応急処置スキル</li> </ul> <input type="checkbox"/> 保険の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入の有無</li> <li>・適用条件と保障内容</li> </ul> <input type="checkbox"/> 救急用品の準備 <input type="checkbox"/> 道具・用具の安全確認	<input type="checkbox"/> 参加者の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ経験や虫嫌い</li> <li>・アレルギー, 既往症, 常用薬などの健康面</li> <li>・性格や行動特性, 対人関係能力, 人間(交友)関係などの精神面</li> </ul> <input type="checkbox"/> 主催者と参加者とのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な事前情報の提供による安心感の醸成</li> <li>・人間関係づくりの工夫</li> </ul>

## <活動中>

	身体面	精神面
参加者への対応等	<input type="checkbox"/> 救急措置 ・状況判断→直ちに処置しなければならないかどうか ・必要な処置 ・処置者の感染防止（血液に、直に触れない等） <input type="checkbox"/> 病院への搬送	<input type="checkbox"/> 事故者への対応 ・落ち着かせる, 励ます <input type="checkbox"/> 他者への対応 ・落ち着かせる→状況の説明 ・再発防止の指導
主催者側の管理等	<input type="checkbox"/> 気象状況の把握 ・現在, 予報, 過去（大雨など） <input type="checkbox"/> 危険箇所の再確認 ・変化がないか（新たに発生したかなど, 本所に確認してください） <input type="checkbox"/> フィールドまでの移動にも注意 <input type="checkbox"/> 救急用品の携行 <input type="checkbox"/> 緊急体制に沿った対応 ・指示系統の一本化と報告・連絡	<input type="checkbox"/> 行動・表情等の観察 ・浮かない表情, 独りぼっちな行動など <input type="checkbox"/> 問題を感じた参加者へのアプローチ ・状況の把握と対応 ・スタッフ間での情報確認と共有 ・問題を感じた参加者のグループへの対応（事実の確認を怠らない, 思い違いや思い込みによる誤った指導の防止）

## <活動後>

	身体面	精神面
参加者への指導等	<input type="checkbox"/> 解散前に身体的な異常がないか確認 ・ケガ, 虫さされ, 植物によるかぶれ	<input type="checkbox"/> 問題がなかったかどうかの把握と対応 ・保護者からの情報収集など <input type="checkbox"/> 事故が起こった場合は, 不安の軽減 ・状況の説明 ・再発防止の指導
主催者側の管理等	<input type="checkbox"/> 事故報告書の作成 ・①誰が, ②いつ, ③どこで, ④何をして, ⑤どうなった, ⑥どう対応した, を時系列で記載 ・事故の原因と今後の対策 <input type="checkbox"/> 保険の手続き <input type="checkbox"/> 事故者への見舞いなど	<input type="checkbox"/> 指導記録の作成 ・①誰に, ②いつ, ③どこで, ④何をして, ⑤どうなった, ⑥どう対応・指導した, ⑦指導に対する反応などを記録

### 【自然の家利用中に考えられる危険】

- 自然環境
  - ・大雨, 強風, 台風, 落雷, 酷暑, 倒木, 土砂崩れ, 積雪, 道路の凍結
- 動植物
  - ・熊, 猿, 狸, マムシ, スズメバチ, クマバチ, アブ, ブヨ, ケムシ, ウルシ, ヤマハゼ, ツタウルシ, ヌルデ, マダニ
- 活動のケガ・病気
  - ・転倒, すべる, ぶつかる, 落ちるなどでのねんざや骨折, 裂傷など
  - ・刃物（ナタ, 小刀等）の使用によるケガ, 火の使用（野外炊飯時）によるやけど
  - ・活動中の熱中症や, 植物によるかぶれやトゲ刺さり, 虫刺され
- 生活場面
  - ・宿泊室内でのふざけやベッドからの転落
  - ・食堂や浴室で走って衝突・転倒
  - ・発熱, 便秘, 下痢, 食中毒, 精神的不安による腹痛や頭痛, 生理痛など
  - ・火災など, 災害時における避難

### 3. 活動中に起きやすいケガや病気と対応

#### (1) 熱中症

熱中症とは、暑い環境で体温が上がって起こる障害の総称です。

病名	症状	応急処置
熱けいれん	<ul style="list-style-type: none"><li>・筋肉がけいれんする</li><li>・手足がつる</li><li>・筋肉痛, 発汗</li><li>・体温は正常の場合が多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・涼しい場所で、けいれんした部分をマッサージする</li><li>・塩分を含んだ水やスポーツドリンク等を少しずつ飲ませる</li></ul>
熱疲労	<ul style="list-style-type: none"><li>・全身倦怠感</li><li>・嘔吐, 頭痛</li><li>・発汗</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・涼しい場所で衣服をゆるめて寝かせ、吐き気が無ければ、塩分を含んだ水やスポーツドリンクなどを少しずつ飲ませる</li><li>・足を高くしてマッサージをするのも効果がある</li></ul>
熱射病	<ul style="list-style-type: none"><li>・体温が上昇し意識障害が起きる</li><li>・赤く熱く乾燥した皮膚</li><li>・ショック状態</li><li>・発汗は見られない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・一刻も早く体温を下げる</li><li>・頸、わきの下、足の付け根など太い血管が通る部分に氷やアイスパックを当てると効果的</li><li>・顔面蒼白の場合には、足を高くしてマッサージをする</li><li>・救急車を要請し、できるだけ早く医療機関に連れて行く</li></ul>

#### (2) 熱中症にならないために

##### 1) 体調を整える

睡眠不足や風邪ぎみなど体調の悪い時は、暑い日中の野外活動は控えます。

##### 2) 服装に注意する

通気性の良い服装を着て、野外では帽子をかぶります。

##### 3) こまめに水分を補給する

- ① 定期的 (15分に1回程度) に水分を補給します。
- ② 特に、夏場は汗と一緒に塩分が失われますので、適度のスポーツドリンクなど飲むと良いでしょう。

#### (3) 虫刺され

山口徳地自然の家ではブヨ (ブト) に刺される人が多いです。

##### 1) 症状

- ① 小さな出血斑があり、かゆみを伴います。
- ② 腫れることにより痛みを伴う場合もあります。
- ③ 体質により水疱 (すいほう) が出来る場合があります。

##### 2) 応急処置

- ① 毒を絞り出します (ポイズンリムーバーで毒を吸い出します)。
- ② 刺されてすぐであればタンニン酸アルコールをすりこみます。
- ③ 時間が経っていれば抗ヒスタミン剤 (レスタミン軟膏) を塗ります。
- ④ 氷等で冷やします。

※ポイズンリムーバーとタンニン酸アルコールは自然の家で準備しています。

#### (4) 捻挫

活動中に起きやすいケガには、捻挫があります。

応急処置のポイントは、**安静・冷却・圧迫・挙上(きよじょう)**です。

##### 1) 安静

ケガをしたらすぐに運動をやめ、患部の安静を保つことが大切です。無理に歩くと、ケガを悪化させてしまいます。

##### 2) 冷却

冷却は痛みをやわらげるとともに出血や浮腫(ふしゅ)による腫れをおさえます。

##### 3) 圧迫

圧迫は出血や浮腫による腫れをおさえます。あまり強く巻きすぎると、血行障害を起こすので、やや弱めに巻きます。

##### 4) 挙上

患部を心臓より高い位置にします。挙上は痛みをやわらげるとともに出血や浮腫による腫れをおさえます。足の捻挫などは、寝るときに足の下に座布団などを入れて寝ると良いでしょう。



## 4. 山口徳地自然の家周辺で特に注意を要する動植物

自然の中で活動することの楽しみの一つに、動植物との出会いがあります。しかし、間違っ  
た行動をとると危険なことになる場合があります。

### | スズメバチ |



#### 【特徴】

- ・野外炊飯場や活動広場など、自然の家の敷地内で広く飛ぶ時期があります。
- ・人間に対して攻撃してくるハタラクバチの体調は3～4 cmと大型です。
- ・腹部は黒と黄の縞模様をしています。
- ・昼間は、クヌギなどの樹液を吸いに幹に集まります。
- ・木だけでなく、岩影や倒木等の低い場所にも巣を作ります。
- ・夏から秋にかけて活動が活発になり危険な時期です。
- ・巣の近くで動くものに対して攻撃します。

#### 【症状】

- ・刺されると激痛があり、大きく赤く腫れます。
- ・重症の場合は、呼吸困難や頭痛、吐き気、発熱、下痢、腎臓障害などが起こる可能性があります。
- ・アナフィラキシー・ショックで死亡する場合があります

#### 【刺されないためにどうすればよいか】

- ・見つけたら前に進まないで、ゆっくりと姿勢を低くして後ろに逃げます。
- ・ハチを刺激してはいけませんー石を投げない、棒でつかない、大声で騒がないー。
- ・衣服は長袖・長ズボンが適しています。
- ・頭や目の玉の黒色を狙う習性がありますので、衣服は白っぽいものを身につけ、帽子をかぶるのが適しています。

#### 【もし刺されたらどうすればよいか】

- ・すぐに水で刺された部分を洗いながら、何度も指で毒を押し出します。
- ・リムーバーがあれば、リムーバーで毒を吸い出します。
- ・ハリが残っているときは、毒が体内に入らないように、リムーバー（事務室にあります）で抜き取ります。
- ・タンニン酸アルコール（事務室にあります）をすりこみ、刺された部分を冷やします。
- ・痛みと腫れがひかない場合は、医療機関で治療を受けます。



### | ツタウルシ |



#### 【特徴】

- ・宿泊棟周辺や野外炊飯場、活動広場など、自然の家の敷地内に広く生えているツル植物です。
- ・木に巻きついたり、地上をはったりしています。
- ・ツルは細くて赤っぽく、3枚の葉からなり中央の葉がやや大きくなっています。

#### 【症状】

- ・かぶれ（かゆみをともなう炎症や水ぶくれになります）。

#### 【植物かぶれを防ぐためにはどうすればよいか】

- ・衣服は長袖、長ズボンが適し、植物に触れる時には軍手をつけます。
- ・地面をはっていることもあるので、座る時にも気をつけます。
- ・下見の際に場所を確認しておき、移動中には絶対に触らないようにします。

#### 【もしかぶれたらどうすればよいか】

- ・かぶれた部分を水で洗い流し、冷やします。
- ・抗ヒスタミン剤入りの軟膏を塗ります（保健室にあります）。
- ・腫れがひかない場合は、医療機関で治療を受けます。

## | マダニ |



### 【特徴】

- ・ 森林や草地に生息しています。
- ・ 4月中旬から11月下旬が活動期です。
- ・ 体にとりついてはすぐには刺さず、体のやわらかい部位を探して刺す習性があります。
- ・ 刺されても痛くもかゆくもないので、なかなか気がつきません。

### 【症状】

- ・ 感染症である「重症熱性血小板症候群 (SFTS)」ウィルスを保有しているマダニに刺されると感染します。しかし、感染した人から、他の人に感染することはありません。
- ・ 感染すると6～14日の潜伏期間後に発症します。主な症状は、発熱や食欲がなくなることです。重症の場合は死亡した例もあります。

### 【防ぐポイント】

- ・ マダニの侵入を防ぐために、長袖・長ズボン・靴下（長め）帽子を着用します。
- ・ 屋外での活動が終わり屋内に入る前に、衣類の上を手で払ったり、上着を脱いで叩いたりします。
- ・ 入浴する際に、首から背中、お腹など、柔らかい部位を中心に刺されていないか確認します。

### 【もし刺されたら】

- ・ マダニを無理にとろうとすると、マダニの体の一部が皮膚の中に残ってしまい、感染する危険があります。
- ・ 自分で取り除かず事務室にお出ください。最寄りの医療機関に行って処置をします。
- ・ 帰宅してから見つかった場合は、速やかに医療機関を受診してください。

□その他にも、「ムカデ」や「マムシ」がいます。

□見つけても触ったりしないで、その場を離れてください。そして、事務室にご連絡ください。

☆周辺道路で「サル」や、夜間に「イノシシ」を見たという情報があります。

☆見つけても威嚇したり、目を合わせたりしないで、静かに、その場を離れてください。そして、事務室にご連絡ください。

☆周辺で「クマ」の目撃情報はありません。見つけても威嚇したり、目を合わせたりしないで、静かに、その場を離れてください。また、気付かれたときは、目をにらみながら、その場を離れます。そして、事務室にご連絡ください。

☆また、登山やハイキングの際は、鈴を携行するようにしてください。

### <その他注意すること>

- ◇山の気温 ・ 標高が100m高くなると気温は0.6℃低くなります。山口徳地自然の家は標高約400mなので、平地と比べると2℃ほど低くなります。
  - ・ 風速1m/秒で、体感温度が1℃低くなります。
- ◇雨天後の落石 ・ 雨天後、落石が見られることがあります。崖や急な斜面には近づかないようにしてください。
  - ・ 林道を歩く際は、谷に近い側を歩くようにしてください。
- ◇落雷 ・ 雷鳴が遠く聞こえる場合でも、落雷することがあります。
  - ・ 落雷を避けるためには、屋内に入るか、屋外では姿勢を低くします。
  - ・ 5m～30mの高い木や鉄塔の底部から4m以上、離れた平地に避難してください。